

う。この先は、時々水が伏流になるなかを進む。8:20完全に水が濁れる。谷をつめ、8:45稜線に出る。

F.以外には、さしたる興味のない、やぶの多い小沢というのが、この沢の印象である。

(記・)

[タイム] 出合(6:50)→稜線(8:45)

出合下沢 (仮社)

無名沢(下降)

1987年8月30日

L.I

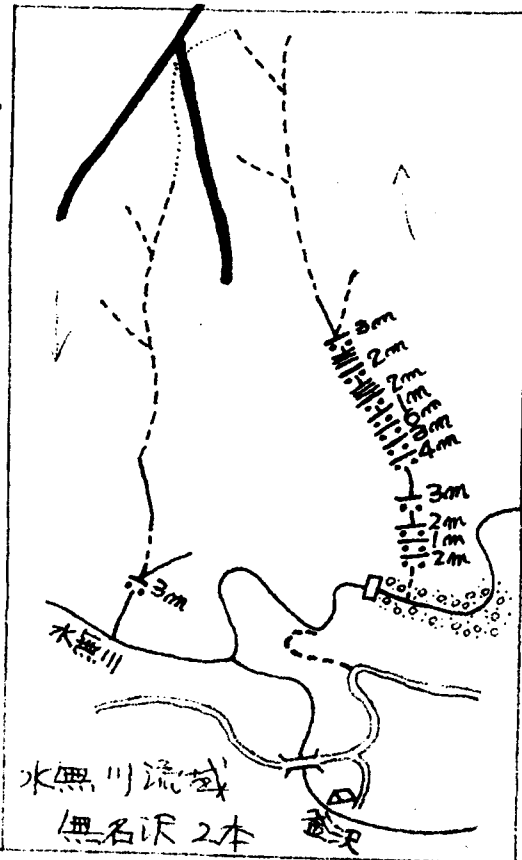
下降開始8:55。尾根から5分程のやぶこぎで沢に降り立つ。しかし沢は濁れて水は無く、大部分がやぶに覆われて、悪戦苦闘を強いられる。

下降を開始して30分、ようやく沢床に水が出てくるが、それでもやぶのひどさに変わりはない。沢が終わりになるころ、ようやく3mの滝が現れる。

左岸の岩の間から湧水がしたたり落ち、それを合わせて一定の水量となったところで、水無川の本流と合わさる。

(記・和泉 功)

[タイム] 下降開始(8:55)→沢(9:00)→水無川本流出合(10:05)



出合上沢 (仮社)
無名沢

1987年8月30日

L.

昨日泊まった釜沢出合のテン場から、水無川本流ぞいの林道を歩いて、右カーブのところから水無川に降りる。砂防工事の時の作業道がブッシュにおおわれて残っていたので、それを利用する。地図に記されている砂防ダムの左岸を乗り越えようと、水無川は、広い河原となっている。目的の沢は、砂防ダムのすぐ上で右岸から合流するが、私達は見逃して先に進んでしまった。多少水無川を遡ったと

ころで行き過ぎたことに気付いて、砂防ダムまで引き返す。

目的の沢の出合は、あまりにも貧弱である。出だしは伏流。河原で、よくよく注意しないと見逃してしまう。

「この沢は何もないね」などと言いながらも、気を取り直して遡行を開始する。多少進むと、沢に水が出てくる。次に1~2mの小滝が連続して出てくると、そう悪くもないぞという感じになってくる。続いて4m, 3m, 6m, 1mと連瀑となって滝が現れる。沢の大きさからいって、この連瀑はもうけものである。ナメを越し3m程の滝を登ると、沢は二手に分かれる。核心部はここまでである。

カレ沢となった右の支沢を見送って、左俣の支沢に入る。少し進むと、沢は再び濁れて、源頭までいっきに突き上げていく。私達はカレ沢を30分程登り、途中、右岸の支沢から、いっきに尾根めざしてやぶこぎに入る。すぐにやせ尾根に出、トラバースぎみに1本下流の無名沢の源頭部へ回り込む。(記

[タイム] 出合(7:10)→沢終了(8:25)→尾根(8:30)

アカツラ沢

1987年8月30日

L

砂防工事用の道路を進み、本流を少し下降してアカツラ沢出合へ。出合は本流が小さなゴルジュ状をなしているすぐ下流であった。

アカツラ沢は、出合に7m程のナメ滝をかけている。ホールド豊富で、簡単に直登できるが、出だしの雰囲気としては上々である。すぐにまた7m2条の滝。この沢のハイライトとでもいうべき滝で、右側の流路にそってシャワーで直登する。このあとも小滝が続き、余て直登できて、飽きさせない。

やがて水量が急減する。とともに沢の傾斜がやや緩くなり、ナメが続くようになる。このナメは、途中に小滝をはさみながら源頭まで続いた。

